

(様式1)

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第二寺島小学校
校長名	由良 隆

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・51観点中、全国平均正答率より上回ったものが32観点であり、全体の62.7%であった。 (昨年度62.7%)・第2学年は1観点を除き、どの観点においても全国平均を大きく上回ることができた、・第3学年及び第4学年は、どの観点においても全国平均を大きく上回ることができた。	<ul style="list-style-type: none">・全国平均正答率を下回ったものが19観点であり、全体の37.3%であった。・目標値より低かったものが17観点あり(第5学年9観点、第6学年8観点)全体の33.3%であった。 (昨年度21.6%)

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学習意欲について、全学年が全国値と同等あるいは、上回る結果となった。	<ul style="list-style-type: none">・学習習慣については、第3学年と第6学年が全国値と比較して同等あるいは下回る結果となった。家庭での学習についても充実できるよう各家庭と連携しながら改善を図る必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末を用いて、ロイロノートやミライシードを授業中や家庭学習で効果的に活用することができた。・放課後補習教室「二寺小屋」を継続的に取り組んでいる成果が表れているところが見られる。	<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末を工夫して活用し、様々な教科において学習内容の定着を図れるよう検討していく。・学習内容をより定着させるために、他の教科における放課後補習教室の実施についても検討が必要である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 知識と技能、思考力・判断力・表現力等のバランス

知識については、低学年・中学年の段階において、読み・書き・計算などの基礎的・基本的なことを確実に習得させるために、ふりかえりシートや東京ベーシックドリル等を用いた学習段階ごとのプリント学習による定着学習で「つまずき」の早期把握をする。低学年においては、多層指導モデル(MIM)を取り入れながら言語能力の把握と向上を図っていく。また反復学習(漢字・計算・用語など)を重視した指導を徹底する。

技能について、算数では、授業で使用するコンパス・分度器・三角定規等の学習用具の適正な使い方を身に付けさせていく。理科では、観察・実験を重視し、操作の習得が必要となる器具については、タブレット端末を含めICTも活用して個々の児童に正しい操作技能を身に付けさせていく。また、他の教科についても、タブレット端末を含めICTを効果的に活用することで技能を高めていく。

思考力・判断力・表現力については、「仮説（予想・理由）を設定する場面」や「観察・実験・調査の結果を考察する場面」を意図的・計画的に設定するなどの指導の充実を図る。また、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、低学年・中学年の国語において音読・暗唱・漢字の読み書きなど言語指導を充実させる。

算数においては習熟度別学習指導の充実を通して、理科においては理科担当教員を中心とした学習指導の充実を通して、知識・技能・思考力・判断力・表現力を育成していく。

このように、知識・や技能、思考力・判断力・表現力等のバランスを考え、指導の極端な偏りの無いようそれぞれの関連をおさえ計画的に指導を行い、児童に確かな学力を定着させる。この過程を大切にすることで、主体的に学習に取り組む態度が養われる。

そして、身に付いた確かな知識と技能を積極的に活用し、小学校低学年・中学年・高学年の思考力・判断力・表現力等を確実に育み、児童一人一人に主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を身に付けさせていくことで、主体的・対話的で深い学びをつくりあげていく。

（２）家庭との連携を図った学習環境の確立

児童一人一人の学習状況調査結果に基づき、個人面談・保護者会等の機会の活用を図り、学校・家庭の相互理解を通してよりよい学習習慣を確立する。基礎的・基本的な学習習慣の確立ができていない児童が散見されるので、学級担任・学年主任等を中心に、あらゆる機会を生かして指導助言を重ねていき、家庭学習の習慣化・継続化を推進していく。管理職からは、全体保護者会・学校便り等を通して適正な家庭学習の確立について啓発していく。

（３）タブレット端末を中心とするICT機器の活用

タブレット端末を中心とするICT機器を活用した授業は、児童の関心・意欲・態度等を喚起し、よく分かる授業の実現につながる。タブレット端末等のICT機器は日常的に使用することで、児童が視聴するだけの受動的な学びだけでなく、ICT機器を活用してまとめたり、発表したりする能動的な学びが展開できると考えている。活用においては、教科における個別の知識・技能の定着を図るとともに、身に付けたことをどう使うかといった思考力・判断力・表現力の資質・能力も育成していく。「ICTを使うことが目的」となるのではなく、よりよく「ICTを手段として使う」ようにすることで学びに向かう力、人間性等も育成し、学力に結びつけていく。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

（１）目標

- ・ 全国平均正答率に対して、51観点中41観点以上（全体の80%以上）が上回るようにする。
- ・ 目標値に対しては、51観点中、45観点以上が上回るようにする。
- ・ 経年比較で全学年がプラス成長となるようにし、正答率を全体的に向上させる。
- ・ DE層の児童の割合が平均15%以下になるようにする。